

令和
8年度

次世代への継承について考える

ふくしま震災
伝 承 者

交流会

参加者募集

東日本大震災・原子力災害の記憶や教訓を
次世代へ継承することは、重要な課題です。

震災を経験した伝承者の高齢化が進む中、新たな伝承者へつないでいくとともに、
震災を知らない世代も新たな担い手となっていくことが必要です。
本交流会では、未来へつないでいくための伝承のあり方について、
講話や意見交換を通じて考えます。

語り部として活動している方だけでなく、震災伝承に関心のある方なら
どなたでも参加できますので、是非お申込みください。

日 時

2026年 **11月10日** 火
13:00 ▶ 16:00

参加
無料

参加対象

- ☑ 県内各語り部団体の会員
- ☑ 震災伝承に興味のある方
- ☑ 市町村等関係者
- ☑ 震災伝承施設関係者 等
どなたでも参加できます



申込方法

参加希望者は、
右記の参加申込フォームから
お申込みください。

【申込締切】11月5日(木)まで

申込は
コチラ!



会 場

CREVAおおくま
(大熊町産業交流施設)

福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116-5

常磐自動車道「大熊IC」より車で約4分
または、常磐線「大野駅」より徒歩1分



次世代への継承について考える

令和8年度

ふくしま震災伝承者

交流会

プログラム

13:00 開 会

13:05 講 話 東日本大震災における伝承の「いま」と「これから」

東日本大震災の伝承に関する最新動向を整理し、ご紹介します。また、戦争や事故を含む全国の語り部調査から明らかになった活動の開始・継続に係る思いや葛藤をデータに基づき紐解きます。多様な立場や世代とともに、これからの伝承活動をどのように持続可能な形で未来へつないでいけるかを捉え直します。

【講 師】東北大学 災害科学国際研究所 准教授 佐藤 翔輔 氏

13:55 休 憩 会場にはゴミ箱がありませんので、ゴミは各自でお持ち帰りください。

14:00 ゲスト紹介 中川 みどり氏、新川 直正氏
「沖縄県における語り継ぎの現状について」

14:20 グループワーク テーマ「次世代へつないでいくためにできること」

小グループでの交流。グループで意見交換後、グループで出た意見を発表します。

【進 行】福島大学 地域未来デザインセンター 山田 修司 氏

15:40 感想発表(フリー発表)

15:55 閉 会 / 閉会后16:00～16:30フリー交流



講 師

東北大学
災害科学国際研究所
准教授

さとう しょうすけ
佐藤 翔輔 氏

1982年、新潟県生まれ。2011年より東北大学・助教として着任。2017年より現職。災害伝承の分野では、災害伝承の効果検証、新たな伝承促進手法・ツールの開発といった学術面だけでなく、東日本大震災の被災地における遺構の保存や伝承施設の支援などに携わる。NIPPON防災資産選定委員長(内閣府・国土交通省)、震災伝承の深化に関する検討会・座長(東北地方整備局)ほか、福島県内では、東日本大震災・原子力災害伝承館・客員研究員、福島県・次世代伝承者育成プログラム検討プロジェクトチーム・メンバーなどでも活動。

ゲ ス ト

対馬丸記念館
学芸員業務職員
なかがわ

中川みどり氏

1968年、鹿児島県鹿児島市生まれ。2022年、対馬丸記念館に入職。2025年から学芸員業務職員として対馬丸の伝承に携わり、現在は小学生から大人まで、年代に応じた講話を行っている。学校や自治体と連携し、講話や企画展、語り部活動を通じて、82年前の悲劇を繰り返さず、平和な社会の道しるべとなることを目指している。

対馬丸記念館
語り部

あらかわ なおまさ

新川 直正 氏

1963年沖縄県那覇市生まれ。父と祖父が1944年の対馬丸事件の生存者で、父は17歳で乗船し、家族6人を失った。2025年11月の宇検村交流事業を機に対馬丸や家族の記憶を調べ、2026年1月に語り部育成事業を受講。同年5月から対馬丸記念館の語り部として活動している。家族の体験や救助への感謝を次世代へ伝え、未来を生きることをともに考える語りを届けている。

お申込み・お問合せ

東日本大震災・原子力災害 ふくしま語り部ネットワーク会議事務局

(福島県 企画調整部 文化スポーツ局 生涯学習課)

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号 福島県庁本庁舎5階

■TEL/024-521-7784 ■E-mail/f-kataribe@pref.fukushima.lg.jp